

## 連載執筆のねらいと執筆者紹介

「教内の福祉の歴史」

松原 浩一郎（天理大学人文学部教授）

本連載では、天理教の歴史を福祉に焦点をあてて論考する。本来宗教と福祉は親和性がある。慈善・博愛事業と呼ばれる実践の多くは、宗教者あるいは宗教教団が担ってきた。教内の福祉活動の根底にも、教えがあることは言うまでもない。しかし、このような内在的要因だけで成立・展開されたわけではない。社会の変化・福祉制度の確立・拡張など、外在的要因も無視で

きない。これらの要因を歴史的に検証することが、本稿執筆の目的である。教内の福祉活動がどのような歴史をたどり現在に至ったのか、これから筆を進めていきたい。

松原浩一郎（まつばら こういちろう）

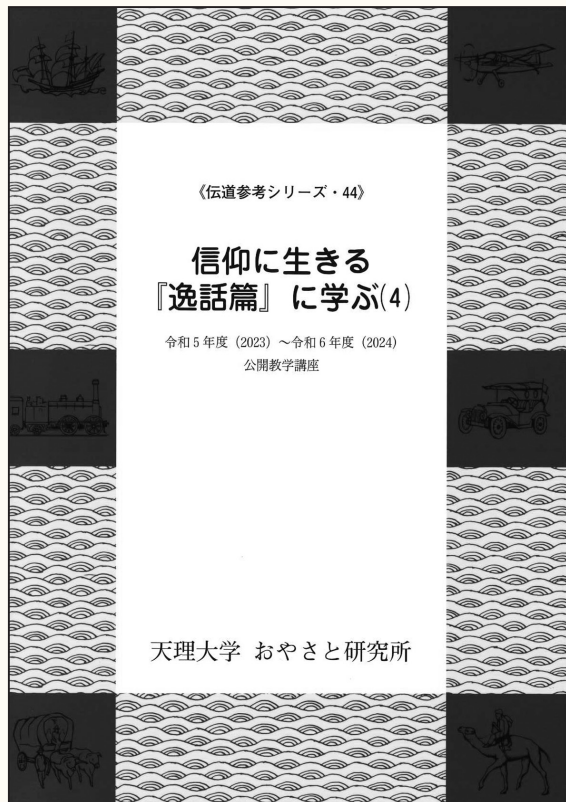
天理大学人文学部社会福祉学科教授。専門は宗教社会福祉、社会福祉実習教育、社会事業史など。近年は岡山県済世顧問制度・方面委員制度、宮崎県方面委員制度の研究をすすめている。教祖百年祭を天理教校専修科生として勤め、卒業後単独布教に従事。北星学園大学大学院社会福祉学専攻（修士）修了。吉備国際大学や九州保健福祉大学を経て、2024年4月から現職。

## 新 刊 紹 介

おやさと研究所では、令和5、6年度のおやさと研究所公開教学講座「信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ」を一冊にまとめ、伝道参考シリーズ（44）として発行しました。

伝道参考シリーズは、道友社販売所で購入いただけます。

本研究所出版物については、メール（oyaken@sta.tenri-u.ac.jp）にてお問い合わせください。



本書には以下の論文を掲載しています。

井上 昭洋：167「人救けたら」

尾上 貴行：168「船遊び」

金子 昭：122「理さえあるならば」

澤井 治郎：146「御苦労さん」

島田 勝巳：165「高う買うて」

堀内みどり：113「子守歌」

井上 昭洋：172「前生のさんげ」

澤井 真：114「よう苦労して来た」

八木 三郎：36「定めた心」

森 洋明：85「子供には重荷」

中西 光一：144「天に届く理」